（様式1）

令和5年度　学力向上指導改善プラン

三田市立松が丘小学校長　大向　勲

学校教育目標	夢に向かって共に生きる児童の育成～学びあい　たすけあい　きたえあう子～
推進主体	管理職と主幹教諭、教務・研究主任を中心に学校教育改革検討委員会を設置

学力に関する前年度の状況・経年の課題等			
学力の状況	全国学力・学習状況調査結果の状況（国語、算数・数学に関する質問紙調査の結果も含む）	国語	・「知識・技能」についての設問は全国より3.3ポイント高かった。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国平均を5.3ポイント上回っている。読み仮名をみて正しく漢字を書く力が定着していると思われる。漢字ドリルを使い新出漢字を学ぶだけでなく、繰り返し練習する時間を設け、熟語を意識させたことが成果に繋がっていると考える。作文の際には、新出漢字を適切に使えるよう指導している。漢字を正しく用いる力が定着してきたことが伺える。 ・「読むこと」に関しては、物語文や説明文などの文章の読み取りに課題が見られる。そのため登場人物の気持ちに寄り添い、ワークシート等を活用して、気持ちを書く活動や文章の要点をまとめ、短い文で表現する活動を取り入れている。
		算数数学	・「変化と関係」の領域では、全国よりも2.3ポイント上回っており、割合の考え方が身についていると言える。割合の計算の仕方だけでなく、割合のイメージを持ちやすくするために、絵や資料、数直線で量を表す活動を多く取り入れたことが成果に繋がったと思われる。 ・「データの活用」の領域では、正答率が7割近くあり、順序良く、場合に応じて考えることができている。 ・「図形」の領域に課題が見られる。図形について理解を深めさせるためには、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解させ、二等辺三角形、台形等について学習する際には、辺の長さや核の大きさなどに着目させて、作図の仕方を考えたり、筋道を立てて説明したりする活動を充実させている。
		ICT機器を効果的に活用した取組状況	・校内研究において、ICT機器を活用した授業公開を行い、事後研において、その活用法について、研修を重ねている。これまでの実践とICTを効果的に組み合わせた指導の実践研究を行っている。 ・ミライシード等で、ドリル学習に取り組ませて、基礎学力の定着を図ったり、意見交流や振り返り、評価への活用などを行っていく。 ・タブレット端末などに教科書等のデータを取り込み、図や文字を拡大したり、グラフや図形を作成することで学習の理解を深める一助としている。
	定期テスト、単元テストなどによる状況（各教科）		・漢字を正しく読んだり、書いたりすることや計算については、さらに「ぐんぐんタイム」で習得を進めていく。 ・解答において考え方を言葉や式を用いて記述する設問では、指示された必要な条件が記述できないなどの課題が見られる。
	授業等からうかがえる状況（各教科）		・対話することで自らの考えを深め、その深めた考えを書いたり、話したりすることで自分の考えを整理する力を伸ばしていきたい。 ・ICT機器を活用し、さらなる対話的な学習を進めていくことで、課題解決に向けて、自分の考えを説明したり、考えたことや分かったことを記述する力の向上を図りたい。
学力向上に係る学習状況	全国学力・学習状況調査の質問紙の状況		・「友だちと協力するのは楽しいと思いますか」の質問では、当てはまるが85.7%と全国より13.1%高くなっている。 ・「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書をしていますか」の質問では、2時間以上が42.9%と全国より35.7%高くなっている。司書教諭と連携した読書通帳の活用の継続していることが功を奏している。 ・「算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか」の質問では、当てはまるが64.3%で、全国より20.5%高くなっている。
慣習・生活習慣等の学習状況	学校評価などのアンケート調査による児童・生徒の状況		・「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問では肯定的な回答が92.8%であった。これは、全国平均を5.7ポイント上回っている。「よくあてはまる」と回答した割合にいたっては、全国平均を10.8ポイント上回っている。教師が児童の言動からよく価値発見して、褒めることを丁寧に行ってきた成果である。
校内の研究・研修の状況	校内研究の状況		・「問いをつなぎ主体的に学ぶ子どもをめざして～思考の深まりが見える単元づくりを通して～」をテーマに社会を中心とした研究を推進している。全教科・領域で、対話により思考を深めることで、主体的に学ぶ子が育つことを検証するための校内研究である。研究の重点としては、①地域に根差した教材の開発②教科書資料の有効活用の探求③思考の見えるノートづくり④ICT機器の活用について、研修を重ねている。
	校内研修の状況		
家庭・地域連携	家庭・地域等の状況		・地域の方々には、温かく見守っていただき、その声は、児童からも保護者からもも挙がっている。より一層、地域と家庭と学校との連携を図っていきたい。
	小・中における教科連携等の状況		・八景中学校区の小学校でふるさと（校区）を大切に思う心情を育てていきたいと考え、保護者・児童アンケート両方に質問項目として設定している。A・B評価「好きである」とする割合が93%となり、児童アンケートでも97%となっており、これまでの成果が表れている。

学力向上に向けての重点的な目標	4月　成果となる目標（指標となる数値等）	4月　具体的な行動目標（成果目標達成のための具体的な手立て等）	2～3月　年度末評価（今年度の成果と来年度に向けた課題等）	評価
①「確かな学力」の育成	・児童アンケート「話を聞くときは、話している人の方を見て、最後まで聞いていますか。」は、96%で、「話をするときは、大きな声で、最後まで話していますか」の項目は、85%が肯定的評価である。これらについて、それぞれ98%、90%をめざす。	・一人一授業公開をし、比較資料を元にした授業の展開を中心にして、対話の導き方について検討する。 ・日々の授業で、『タイム』の効果的な設定の仕方やノートづくり、板書から対話を活性化させる。	・一人一授業公開をして、比較資料を元にした授業の展開を中心にして、「問いをつなぎ主体的に学ぶ子どもを目指して」を研究主題として、研修を重ねてきた。保護者アンケートにおいて「職員は、一人ひとりの子どもにわかりやすい授業をし、子どもたちに確かな学力をつけている」ではAB評価が91%であった。 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、設問によっては全国平均を6.9ポイント上回り、正しく漢字を書く力が定着していると思われる。しかし「思考・判断・表現」に関する設問では、全国より11.5ポイント低かった。「記述式」の設問に関しても全国より16.3ポイント低かった。失敗することや間違えてしまうことを恐れるあまり、少し難易度の高い課題に対してじっくり向き合わないことが考えられるためノートやICT機器を用い、自分の考えや意見など立場を明確にし、文章で表現できるようにする時間を確実に確保していく。また失敗や間違いを検証し、次につながる自信を身につけさせ、失敗や間違いを恐れない学びの場を設定する。	B
②「豊かな心」の育成	・児童・保護者アンケート両項目「目標を立てて読書に取り組んでいる。」の項目で、肯定的評価を児童で85%、保護者で60%をめざす。 ・児童・保護者アンケート両項目「自分からすすんであいさつができている。」で、肯定的評価が児童で95%、保護者で85%をめざす。	・学校全体で読書通帳に読んだ本のページ数を記録することに取り組み、読書の質向上をめざす。 ・進んで「ふたことあいさつ」をすることが相手にとっても、自分にとっても気分が良くなる体験を重ねることで、自尊感情を高める。	・読書通帳で意欲づけにつなげることができた.読書の取り組みや本校内のみならず、登下校見守りや学校ボランティアなどの地域の方々へのｆふたことあいさつ」の実践が人とのつながりや豊かな心を育むことにつながってきている様子が見られる。次年度は、毎月23日に「家族読書の日」を設定して、学校と家庭の双方でより児童が読書に親しめる環境を作っていきたい。	A
③ICT機器の効果的な活用	・ICT機器を効果的に活用して授業を展開していきたい。「図形」領域では、特に効果的であると考える。正多角形の学習においては、プログラミングソフトを活用し、指示を適切に出す学習を行うようにする。 「主体的・対話的で深い学びのある授業」を目指して、学習展開を工夫していく。 ・算数の時間だけでなく、総合的な学習の時間などを活用し、プログラミングに慣れ親しむようにする。プログラミング的な思考は、様々な授業場面で論理的な思考を繰り返すことで育成される。「～だから～になる」「～することで～になる」といった思考ができる学習場面を多く仕組んでいきたい。	・友だちの考えや自分の考えを画面で見ることで、共有化でき、グループ化したり、自分の考えを深めることにつなげていく。また、考えの活発な意見の交流ができることをめざす。 ・図形について理解を深めさせるためには、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質について理解し、それを基にして図形の構成の仕方について考察できるようにすることが重要である。二等辺三角形、台形等について学習する際には、辺の長さや核の大きさなどに着目させて、作図の仕方を考えたり、筋道を立てて説明したりする活動を充実させる必要がある。	・ICT機器を効果的に活用して授業を展開することができた。例えば算数の「図形」領域や社会科の資料分析など、あらゆる教科において視覚的な支援から理解の手助けにつながった。また全教科の話し合い活動においては、自分の考えや友だちの考えを画面で共有化でき、グループ化したり、自分の考えを深めることにつなげ、活発な意見交流をして、全員参加の授業を行うことができた。共同編集の機能を持ち、同時編集を行うアプリ（Canva）を使うことで、情報の即時共有ができ、それが児童の困り感を減らすことや学習時間の短縮につながった。また、社会や総合的な学習の時間等に調べたことや自分の考えについてパワーポイント資料を作成し、プレゼンを行う機会を多く持ち、自尊感情の向上につなげることができた。プログラミング的な試行は、様々な学習場面で論理的な思考を繰り返すことで育成されることを痛感した。次年度も継続してこれらの取り組みを進めていくとともに、教職員の研修に関しても引き続き力を注いでいきたい。	A
④「健やかな体」の育成	・保護者アンケート「学校は、子どもたちの健康や生命の安全を守り、体力や精神力を身につけさせるために努力している。（健康、保健、食育）」の項目で、肯定的評価98%、子どもアンケート「あなたは、なわとびに取り組んでいますか。」の項目で、肯定的評価70%をめざす。	・外遊びを積極的に行ったり、なわとびに目標を持って継続的に取り組んだりすることで、体を動かすことに親しめる子どもを増やす。	・体育では毎時間授業の始めに、本時学習中の単元に関連する運動能力や筋力の向上をねらったサーキットトレーニングのメニューを取り入れてきた。それにより、児童の体力向上を実感した。また、休み時間には外遊びを積極的に行う様子が見られるが、それはまだ児童全体広がっているとは言えない。そのため、すべての児童が様々な運動に継続して取り組むことを次年度への課題とたいい。	B
⑤一人一人が大切にされる教育・支援の充実	・保護者アンケート項目「お子さんは、学校に楽しそうに通っている。」と、児童アンケート項目「授業中や、休み時間に楽しく過ごしていますか」について、否定的評価を0%に近づける。	・児童理解や特別支援教育、「三田市いじめ防止基本方針」に基づく取り組みについての研修を重ね、教育活動全体を通じて、子どもの社会性を培い、自立心や自律性の育成に努める。 ・本校の研究の重点を意識した研修を重ねると共に、1人一授業の継続を推進していく。 ・校内でミニ研修会を定期的に行い、学習過程の記録の活用法、遠隔授業の向上、思考を深める授業のICT活用などを交流している。	・保護者アンケート「お子さんは、学校に楽しそうに通っている」と、児童アンケート「授業中や、休み時間に楽しく過ごしていますか」について、AB評価が98%と90%である。 ・質問紙調査から「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」の質問では、あてはまるが60.9%と全国を29.1%上回り、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」の質問に、あてはまるが52.2%で全国を20.2%上回っている。このことから、児童が学級内で互いを尊重して、その力を認め合い、ともによりよい生活を作り出していこうとする積極的な姿勢がうかがえる。次年度も児童理解や特別支援教育、「三田市いじめ防止基本方針」に基づく取り組みについての研修を重ね、教育活動全体を通じて、子どもの社会性を培い、自立心や自律性の育成に努めていきたい。	A
⑥地域ぐるみで子どもを育てる環境づくりの推進	・八景中学校下の小学校でふるさと（校区）を大切に思う心情を育てていきたいと考え、保護者・児童アンケート共に、肯定的評価のさらなる向上をめざす。	・各学年で地域教材や人材を活用した学習を工夫し、地域行事や祭りなどに参加を促す。児童会活動として感謝のつどいを継続するなど様々な場面で、地域を意識する活動に取り組む。また、学校での取り組みを学校だよりや学年・学級通信などから発信していく。	・質問紙調査から「地域が好き」という児童の割合が高いことがうかがえる。児童アンケート「自分の住んでいる地域がすきですか」では、AB評価が97%であった。八景中学校区では、各校とも登校見守りや、学習補助のボランティアさんにお世話になっている。中学校においても、トライやるウィークの取組みに際して、たくさんの保護者の方に協力をいただいていることが児童生徒の意識に大きく影響している。地域と学校が協力して児童生徒を育もうとする八景中学校区のよさが今後も継続できるよう、地域との連携を強めていく。	A